

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第21回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第21回〕
2. 開催日時 令和4年5月31日（火） 19時00分から21時30分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 出席者氏名  
【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略  
知久克志、新井正彦、稲福博幸、村田肇、矢澤登、北林昇、唐沢寛文、  
米山俊孝、黒澤哲郎、寺沢秀文、熊岡正志、小澤文人、矢澤良一、宮下彰、熊谷宗明  
熊谷誠、神田葉子、松浦善文、小林幸彦、西尾明廣、北原俊秀、寺沢茂春  
【JR 東海】  
中央新幹線建設部名古屋建設部 古谷部長  
中央新幹線長野工事事務所 太田垣課長、工藤主席  
// 大鹿分室 水上室長、水野主任  
【長野県】  
飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 大島課長、田中課長補佐  
【役 場】  
宮下町長、岡田副町長、小沢課長、片桐係長、原課長
5. 議題
  - (1) 副委員長の選出について
  - (2) 発生土運搬状況について
  - (3) 車両モニタリング調査及び移動コンテナ局測定結果について
  - (4) 7月以降の松川IC方面運行計画について
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）  
—
7. 傍聴人の数  
7人
8. 会議資料の名称
  - ・会議次第、資料（町作成）
  - ・別冊資料（JR 東海作成）
9. 会議の概要
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 会議事項  
上記のとおり

(4) その他

(5) 閉会

## 10. 会議録

【小沢課長】

お時間となりましたので進めさせていただきます。

私は本日の進行を務めさせていただきます、リニア対策課の小沢と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それではただ今から、松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会を開会いたします。2番のあいさつということで、まず黒澤委員長お願いいたします。

【黒澤委員長】

どうも皆さんこんばんは。委員長を仰せつかっております黒澤と申します。新年度に入りました早2ヶ月が経過してまいりました。早いもので、そんな中今日は皆さんお忙しい中、またお疲れのところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。新年度に入りまして、対策委員会も初の会議ということになります。第21回目となりますけれども、新たなメンバーの方にも参加をいただいております、今日は。どうか忌憚のないご意見をいただければなと思っているところでございます。また、今日は紹介がありましたように長野県の方から、飯田建設事務所リニア担当の皆様、それからJR東海の皆様にもご足労いただいております。ありがとうございます。

それでは、これから約2時間を計画しているのかな、予定でありますけれども、よろしくお願いいたします。

【小沢課長】

続きまして宮下町長お願いします。

【宮下町長】

皆さん、こんばんは。まずは松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会という事で、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また、特に松川町におきましては会の会長さんが変わったりとか区長さんが変わられたりして本日初めての方もいらっしゃいます。どうか、よろしくお願いいたします。会長からもございましたが、長野県のほうから、またJR東海のほうからも説明として来ていただいて大変ありがとうございます。

現在、発生土運搬が町内で行われている状況でございます。この後、町のほうからの説明をさせていただきますが、モニタリング調査等させていただきます。その中で比較的いい結果が出ているところではございますが、やはり全国で報道されておりますとおり一回でも事故を起こすと大変状況が厳しくなりますので、引き続き、特に事業主体でありますJRの皆様には気を付けていただきますよう、よろしくお願いいたします。また本日は地域の皆さん色々な方面から集まっております。それぞれのお立場からのご発言がいただければなと思っております。本日はどうかよろしくお願いいたします。

【小沢課長】

続きまして、JR東海中央新幹線建設部名古屋建設部の古谷部長様お願いいたします。

【JR東海/古谷部長】

改めまして、こんばんは。JR東海で長野県の担当部長をしております古谷と申します。今晚も大変お忙しいところ、ご説明の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃よりリニア中央新幹線事業にあたりまして、松川町の皆様のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

おかげさまをもちまして、大鹿村のトンネル工事では、4月から実際にリニアが通る南アルプスの本線トンネルの掘削をスタートしており、着実に工事を進めさせていただいているところでございます。

一方、新聞報道でご存知かと思いますが、トンネル工事で作業員が怪我をするという事象が続き、前回の委員会でも2回の労働災害についてご説明させていただきました。その後、4月15日もちょっと怪我をした労働災害を発生させてしまいました。ご地元の皆様にはご心配をおかけしているところでございます。その3回目の労働災害については、現在、我々と施工業者の方で原因と対策について検討しているところでございますが、本日は、その概況についてお時間を頂戴しご説明させていただければと思います。

本題ですが、JR東海の方から発生土運搬の状況についてご説明させていただきます。今までこの委員会でご説明させていただいた内容に加えまして、スライドと映像も見ていただきながら、状況について皆様にお話をさせていただければと思います。当社といたしましては、この委員会の皆様としっかりとご議論させていただく中で、松川町の皆様の思いをしっかりと受けとめ、それをよく理解した上で事業を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆様のご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。今晚もどうぞよろしくお願いいたします。

【小沢課長】

はい。続きまして、長野県飯田県建設事務所リニア整備推進事務所調整課大島課長、お願いいたします。

【長野県/大島課長】

皆様、こんばんは。長野県飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課長ということで、この4月からお世話になっております大島則雄と申します。対策委員の皆様におかれましては、日頃より長野県の建設行政にご理解ご協力を賜りまして、この場をお借りしまして、お礼申し上げます。また、JR東海が進めておりますリニア中央新幹線関連事業につきましては、格別のご配慮をご理解をいただいておりますことを重ねてお礼申し上げます。県といたしましても、引き続き松川町の当局と連携させていただき、JR東海・関係機関との調整を図ってまいりたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【小沢課長】

これより新しく変わりました委員の皆様のご紹介をさせていただきます。本日の資料の2ページ目をご覧ください。まず古町区会から知久克志様。上新井区会から新井正彦様。名子区会から稲福博

幸様。大島区会から村田肇様。部奈区会から唐沢寛文様。生東区会から下澤義彦様。それから、松川町交通安全協会会長、熊谷誠様。松川町交通安全協会女性部長、神田葉子様。あと、今回から一つの団体に新しく加わっていただきました。信州松川くだもの観光協会、熊谷宗明様でございます。以上、皆様よろしくお願いをいたします。

それでは、これより会議事項に入ります。対策委員会設置要綱第5条に会議は委員長が議長となることから、黒澤委員長の進行でお願いいたします。

【黒澤委員長】

はい、それでは会議事項の方に入ってまいりたいと思います。(1)副委員長の選出についてという事でございますが、ただいま副委員長さんが退任をされまして空席ということかと思っております。この選出について、事務局からご提案をお願いしたいと思っております。

【小沢課長】

はい。事務局からの提案でございます。今回より、区長会長の生東区長、下澤区長にお願いをしたいと思っております。本日は他の会議と重なっておりまして欠席でございますけれども、お引き受けいただきますようお願いしてまいりたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

【黒澤委員長】

はい、事務局案ということで、区長会長さん生東区長の下澤区長さんをお願いしたいということで、調整をしているということでございます。皆様、そんな形でよろしいでございますでしょうか。

ご異議がないようでしたら、下澤区長さんをお願いをしたいと思っております。それでは事務局の方から改めてそんな形でということでお願いしたいと思っております。今日は他の会議を欠席ということでございます。

それでは(2)発生土運搬状況についてという事でございます。別冊の資料があるようでございます。こちらJRさんのほうから説明ということでよろしくお願いをいたします。

【JR東海/太田垣担当課長】

(2)発生土運搬状況について(太田垣担当課長説明)

【黒澤委員長】

前半部分でのということで、要するに現況報告ということでございます。お集まりの委員の皆さん、日頃ご覧になってお気づきの点等あれば、そこら辺のところも含めてご発言をいただいて結構でございますので、ご質問等ご発言がございましたらお願いをしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。はい。知久委員さん、よろしくお願いをいたします。

【知久委員】

こんばんは。古町区の知久です。よろしくお願いをいたします。今ビデオでありましたように、的場橋自体が狭い。今のところダンプの方も一般車両を優先してくれている感はあります。ところが、これから台数が増えていくと、特に冬場ですね、非常に心配されます。幅員が狭い、それから譲ってられなかった場合に困る、それからダンプのほうも止まるところが坂道なんです。ですから非常にそこ

のあたりを心配しております。

それで、私は何を言いたいかというと、今までに国道の取り付け部分、的場橋への取り付け部分、その部分の狭窄部、狭い部分、そこを拡幅してくださいというお願いを今までずっとしてまいりました。そういった事が何も進めていただけない中で、ただただ今のところ問題がないからダンプの数を増やしたい、そう言われましてもですね、私も狭い・信号もない、それから交通誘導員を置いてください、それから一般車両優先というような表示をしてくださいというお願いも今までにしてまいりました。そういった事は何もなされないまま、ただただ今のところ、この夏場で良い条件のビデオだけ見せられて、問題がないからと言われても、ちょっとこちらとしてはですね、納得がいかないところがあります。どうか、そういった事を確実に進めていただく中で、ダンプも増やしたいんですけどどうだと。そういったことを進めていただきたいと思います。以上です。

【黒澤委員長】

はい、ありがとうございます。冬場の問題、心配だということから、それと今までいくつか要望してきていただいたというわけでございますけれども、国道との取り付けの部分の狭窄部等の改善、誘導員の設置、それから看板と、いくつかございましたけれども、町の方も聞いているかと思ひますし、こちら辺のところは国道長野県さんの方との関係もあるかと思ひます。まず、その要望事項、町のほうから音頭を取って返事、対応していただけますでしょうか。

【小沢課長】

国道の取り付けの部分でございますけども、狭いところがあります。そこが法面の方にコンクリートの構造物がありまして、ちょっと工事をやるにはかなり大きな事業になってしまひまして、なかなかやるのも難しいのかなということでJRとは検討させていただいた状況であります。誘導員の方は、これもJRと検討させていただきましたけども、これに関しましての回答はJRのほうからお願いします。

【黒澤委員長】

町の方としてはJRさんと話をさせていただいてるということですので、JRさんの方からお願いをしたいと思ひます。

【JR東海/太田垣担当課長】

JR東海の太田垣でございます。いろいろご心配の声をいただいております。過去にいろんな場所で説明会をさせていただき、その中でおっしゃっていただいたところもございました。そういった中で、私共として出来るところ出来ないところを町と検討してまいりましたが、先ほど小沢課長がおっしゃったように、狭いところを広げることについては地形的にもかなり厳しいかなというところがございます。

ただ、それ以外何もしてないのかというところでございますが、あの付近での対策としては、国道に出るところのカーブミラーを大きくし、今までは片方しか付いていなかったものを両サイド付けさせていただいてきました。また、注意喚起の看板として、道路幅が狭いというようなものも設置をさせていただいているところでございます。なかなかそれだけでは十分じゃないというようなお考えもあるかと思ひますが、徐々に台数を増やしていく中で、円滑に流れるかどうかを確認し、もし

何かこの先も問題が生じましたら、関係箇所と調整して、問題解決にあたりたいと思います。引き続き、できることを解決しながら通行させていただきたいというのが、今の私共の考えでございます。よろしく願いいたします。

【黒澤委員長】

ご発言の中に地元車優先の看板とか、誘導員を設置していただきたいという要望がありましたが、その部分についてはいかがですか。

【JR東海/太田垣担当課長】

工事用看板をつけていますが、どのような内容であったかというのは具体的には…。町のいろんな所に注意喚起の看板をつけさせていただいており、その言葉がどういった言葉かというのはすぐ出てこないですが、そういうものをつけさせていただいております。誘導員につきましても、車両を走らせていく中で必要性は見極めていきたいと思っております。今のところ、十分流れているのかなと私共は考えております。

【黒澤委員長】

はい。冬場の対応っていうような事もありましたけど、またそのことも冬場はいかがでしょう。冬場の対応について。

【JR東海/太田垣担当課長】

冬場は凍結とかのご心配かと思えますけれども、そこも道路管理者と協議し、凍結時の場合についても確認書を結んでおりますので協議したいと思えます。

【黒澤委員長】

はい、ご回答いただきましたけど、知久さんいかがでしょうか。

【知久委員】

はい、ありがとうございます。ただ、何度も言うようなんですけどね、あの狭い狭窄部分の狭い部分ありますよね。あそこ難しいからやらないよっていう言い方なんで、なんで出来ないんですか。やればできますよね。ただ皆さんのお考えとしては、やる必要がないと考えておると思うんですけども。先ほどからも言いましたように、冬場ですね。下からダンプが来る、上から下ってく。凍っている。雪があってあれしてる。狭くてすれ違いができない。かと言って下って行くほうは止まれない。そういった事が必ず起きると思うんですね。起きてから対策を考えますよって言うておられますけれども、それでは遅いかと思えますんで。何度も言うように、せめてあそこの部分だけでも広くしてもらえませんか。そういうお願いをしてるわけです。的場橋自体も狭い。雪が積もるようになれば、すれ違いできませんよ。だから的場橋自体をなおせって言うても、それは難しいことだと思うんですけども。そういう中で、ただただ今のところ大丈夫だから、今のところ何も無いから、通りますよっていうのではですね、古町区としては納得ができないんですよ。なんとか狭窄部の部分においてはやる方向で検討してもらおうと。それから誘導員を置いてもらってですね、一般車優先というようなところをしっかりとやってもらう中で問題が仮に起きれば、あれなんですけれども、何か問題が起きてから

考えますという考え方はちょっと、古町区としても納得ができませんので、そこら辺のところはもう一度ですね、お願いをします。どうか検討をいただきたいと思います。

【JR東海/太田垣担当課長】

ご意見としては承りますが、引き続き、地元の皆様とはお話し合いをしながら、運行の方は進めさせていただきたいと思います。今日お答えが出来るかという、なかなか難しい問題ですが、引き続き、お話し合いをしながら通行させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【知久委員】

じゃあご検討いただければ、こちらとしても通っていただいて結構ですっていう事を言えないんですけども、そこら辺はそういうご理解でいいですか。

【JR東海/古谷担当部長】

はい、貴重なご意見ありがとうございます。しっかりと検討させていただきますので、よろしくお願い致します。

【黒澤委員長】

はい。地元区長さんから強い要望という形で出ております。また、何かあってからっていう事ではなくて、先を読んだ対応をぜひお願いをしたいという事でございますので、またJRさんの方でしっかりとご検討いただいて、またご回答いただければと思います。それでは他にも、ありましたら。はい、矢澤委員さん、どうぞ。

【矢澤委員】

お願いします。鶴部の交差点付近のことについて、ちょっとお願いをしたいなと思うんですけど。ちょうど10ページに写真付きで出ておりますので、わかりやすいのでこれを見て何点かお願いしたいなと思います。

ここに側溝整備をしてカラー舗装をしていただいて、その点については非常にありがたいなと、そんな声を聞いているんですが、見ていただいたりしているかと思いますが、鶴部のこの交差点は他の交差点に比べて非常に狭いということで、前々からこの交差点を広くしていただきたいっていうような声が上がっているわけでございますけれども。左側の、道路の左側はこれは鶴部井がはしていますので、ちょっと難しい面があるわけですが、ある程度長期の見通しをもってそこら辺を少し広くなるように、検討いただきたいなということと。もう一点なんですが、写真の下から道路が入ってきますよね。この道路を使用している戸数は10軒ほどなんですけど、その方たちからの声がございますね、この道路から出るのに非常に大変だっている。特に大きな車が、ダンプ等が行き交い通ると、特にということなんですけど。要するに、見ていただけるとわかるように、建物が建っています。非常に見にくい。ですので、見にくいようなことから、なんとかもう少し安心して出られるような検討をしていただきたいということ。そういう声が多いんですけども。中には土地を提供を踏まえて何とかならないかっていうような、そんな声も聞いておりますので、今後ですね、今すぐっていうわけにはいかないと思うんですけども、鶴部交差点のこの写真近辺の交通対策、そういうものを今後検討していただきたいなと、こんなふうに思います。

【黒澤委員長】

はい。鶴部の交差点の部分について、ご発言いただきましたけれども。まずは狭いという事で、道路の左側の部分との関係と、右から接続している部分が出るときに非常に見にくいというようなご意見をいただきましたけれども。この辺の整備の関係は町道かと思えますけれども、小沢課長いかがでしょうか。

【小沢課長】

はい、鶴部井を整備して道を広くというような考えもあったんですけども、なかなかそれがすぐにはできない状況だったので、将来的には広くしていくような方向で検討が必要なのかなという事があります。それからグリーンベルトの所の三叉路ですが、もう少し下流のところでは土地を寄付するので道を造ってほしいという話は伺っております。こちらでも検討させていただいております。ただ、すぐに工事ができなかったものですから、この三叉路の所には新たにカーブミラーを設置して出るときに気を付けてほしいという事で設置をさせていただいております。改良に関しましては鶴部井のところと、その下の新しい交差点の所に関しましては、これからまた検討させていただきます。ただその時に、ここの三叉路の所の交差点はもしかしたら無くなる可能性もありますので、そこらへんは慎重に行動しなければいけないのかなと思います。以上です。

【黒澤委員長】

すぐにはできないという事だったんですが、既に通行しているという事で、またそこら辺の見通しはいかがなものでしょうか。

【小沢課長】

はい。どういう形になるかわかりませんが、ここら辺に関しましては担当課と一緒に話合いをしていきたいことと、またJRとはしっかり協議をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【黒澤委員長】

JRさんはこの部分のご指摘のほうはお聞きになっていましたでしょうか。いかがでしょうか。

【JR東海/太田垣担当課長】

太田垣と申します。前半部分の交差点付近が狭いという話は以前から聞いております。一方、出るときに見通しが悪いというお話は、また現地を見させてもらって実際どうなのかという確認をし、町と協議になろうかと思えます。そのように進めていきたいと思えます。

【黒澤委員長】

はい、町とJRさんからご回答いただきましたけれども、矢澤委員さんいかがですか。

【矢澤委員】

台数が最初は25台で、今回は40台と。今後どうなるか全く、増える可能性があるのかどうかと



ということの心配もあります。できるだけ早く検討していただいて、安全面を確保していただきたいな、そんなふうに思っております。以上です。

【黒澤委員長】

はい。現地も見ていただけるとのことですので、また次回の対策委員会の時には回答いただけるものと思っておりますので、よろしくお願いいたします。他にご発言はございますでしょうか。新井委員さん、どうぞ。

【新井委員】

はい。上新井区会の新井です。私は上新井の交差点についてちょっとお願いをしたいと思います。ここはですね、毎回ではないんですけれど時間帯によって、朝また夕方時間帯は、上新井の交差点を越えるのに3回から4回信号待ちをしないといけないというような状況も結構発生してきております。それから、右折の車が先頭に入ってしまうと、もう全然車が動かないで信号が変わってしまうというような状況も発生します。また商店街のお店の自分の駐車場へ車を入れて、それを出そうとしても、車が身動きが取れなくて、なかなか町道に車を出せないというお話も結構いただいております。

それで今後、ダンプが増えるとすれば、今でさえそういう状況なのに、何か対策があるのかどうかということ、なかなか難しいと思うんですけど、例えば信号の右折車があった場合の時間帯の調整ですとか、それから他の誘導の仕方ですとか、何か方策があるかどうかそこら辺を教えていただければと思います。以上です。

【黒澤委員長】

はい。この上新井交差点については以前からご指摘があったり、非常に混みあうところという事でご指摘があった部分ですけれども、JRさんはこの現状についてはどのように認識されているんでしょうかね。

【JR東海/太田垣担当課長】

当初より心配な所だということは承知しております。そういった中で、運搬ルートについては、ご迷惑おかけしてはるんですが、鶴部線や洞新線と分散化してはどうかとか、あるいは、まだこれからの話ですが、北上する時には竜東線を渡っていくような事も協議してまいります、という方針を出しており、長期的な話になりますが、なるべく分散化するという方向で計画を立ててきたという経緯がございます。

あと地元へ足を運んで、その辺りのお話を聞きながら、ダンプの運転手に対しては、譲り合い運転・地元車優先する運転をしてください、店舗の駐車場から出たい車があった場合は入れてあげなさいとか、そういった指導はずっとしてきたところでございます。出来ること出来ないことはあるかとは思いますが、なるべくやれることがないかという事は検討していきたいと思っております。

【黒澤委員長】

町のほうは上新井の交差点の調査等しているかと思いますが、町のほうでは現状ご指摘いただいた部分についての認識はいかがでしょうか。

【小沢課長】

はい。渋滞をするというようなことは前からお聞きはしております。ただ、あの交差点を改良をということで一時期話があったわけなんですけども、やはり改良するにはあそこの交差点をフル規格の改良がいいというような形の中で、今現在は少し止まった状況であります。ですので、改良工事をやるとすれば全て右折ゾーンをつけたフル規格という形になります。それから、信号機の時間の変更なんですけども、飯田警察署に行きましたら、あそこの信号機は自動で、車が多くなったらその方向が青の時間がちょっと長いと。ですので、あまり変えない方がいいというような、そんなような形で答えていただいておりますので、最終的には右折の信号をつけるかという事が一番大事なのかなと思いますけれども、道がとにかく右折ゾーンがないもんですから、なかなか難しい問題なのかなと認識しております。また今後とも県と話しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【黒澤委員長】

建設事務所さんのほうは上新井の交差点のところは、当初からお話があったところなんですけど、どんなご認識でありますでしょうか。

【長野県/大島課長】

はい。長野県の大島でございます。国道と県道の交差点ということになりますので、私どもとしても、今後、将来的に拡幅等必要になってくるとは認識しております。ただ、現状用地的なものも当然でございますし、今後の利用の仕方というものをどう考えるかということもございまして、そういったところも今後確認しながら、ご要望として検討してまいりたいというふうに思っております。

【黒澤委員長】

はい。特にですね、現状リニアに関する発生土の運搬ということで、非常に交通量が多くなってきているという。それから右折の問題等を抱えているということであります。またぜひ建設事務所さんのほうでも、しっかりご検討いただければありがたいかなと思ってるところでありますけれども。新井委員さん、いかがでしょうか。

【新井委員】

現状、非常に153号に出るのに苦勞している実態を見ていただいて、本当に改良が必要だと思わなければならないと思いますし、今お話を聞いてる限りでは、そういった対策は今のところはないというようなふうに聞こえますが、ぜひいろんな面で検討をお願いしたいと思います。以上です。

【黒澤委員長】

はい。この部分は当初から懸案の部分でございますので、それぞれのお立場のところで現状把握をさせていただいてですね、しっかりご意見受け止めていただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは他に。はい、神田さん。お願いします。

【神田委員】

はい、神田と申します。私、3月まで郵便局に勤めていたんですけれども、大島局から大鹿に上がるんですよ、毎日。郵便の配達、それから3時少し前にゆうパックと、大鹿から郵便物とゆうパックを持って下りてくるんですけれども。その時にほとんど毎日っていうぐらい小渋線を通っていたんですけれども、その時にちょっと感じたことで。3月の途中から、そこら中の県外ダンプ車が増えました。その時に、モラルのあるダンプとないダンプとすごく多くて、ここなら抜かしてくれるんじゃないのと思うところでも抜かしてくれなくて、イライラしたこともありました。それで、橋はもう直らないので、これはしょうがないと思っているんですけれども、小渋線は先が見えるから3ヶ所狭い橋があるんですけれども、どのくらい上から下りてくるって分かるんですけれども、四徳大橋、あそこは小渋トンネルを過ぎてカーブが続いてすぐ橋で、橋を渡るともうトンネルで、残土を乗せた車が優先なんで、どのくらいの量のダンプが向こうからくるか分からないんですよ。それで、こっちも空のダンプが前に5台くらい連なっちゃうと、もうずっと待ってなきゃいけない。一般車はそれこそダンプとすれ違えるんですけれども、四徳大橋は、でもダンプが前にいると全然動けないんです。それで、4月からまた40台ダンプが増えたという事をお聞きしました。上がっていく時間までには大島局へ戻って来なきゃいけないのに、モラルのないダンプがあったり、それから、大鹿の住民の方が高齢者が多いんですよ。それで、どこの橋だか分からないんですけど、5月だったと思いますが、ダンプがハザードを焚いたんで寄ってくれたから行けっていうふうに勘違いしてダンプと衝突した、けが人が出なかったから良かったけどって大鹿の人にお聞きしたんですけれども。四徳大橋の先が本当に何も見えないんで、あそこだけでも誘導員を付けていただいて、一般車はダンプと橋すれ違えるんで、一般車を優先していただけるような配慮をしていただけるとありがたいと思います。

【黒澤委員長】

はい、ありがとうございます。実際に経験をされた中でのご発言をいただきましたけれども、これJRさんの方でお願いしたいと思いますけれども。

【JR東海/水上分室長】

ご質問ありがとうございます。大鹿分室長の水上でございます。小渋線の通行にあたっては、小渋線全体を通して、ダンプの運行をどうしていくかというとなかなか難しい部分もございます。モラルがある、ないというところもございます。まず小渋線については、当初より一般車優先というのが大原則でございます。一般車を優先させるという教育は私どもも行っております。ただ、一般車優先はもちろんです。優先させる以上は安全に追い越しができる場所、完全にすれ違いができる場所を選ばなきゃいけない、という教育もしっかりとやっております。現在、私どものダンプも多く走りますが、それ以外のダンプも非常に多い状況です。それらのルールを統一していくという課題があるものの、私どもの関係車両については、まずはそのような教育をしております。

当然ダンプが多くなってくると、先ほどおっしゃられたように追い越しをさせるという事をして、逆に追い越ししたばっかりに危なくなるケースがあるので、安全な場所がなければ追い越しは無理にさせる必要がないと話をしていきます。なかなか難しいところで、一般車優先は大原則ですが、事故するのが一番良くないと思っています。追い越しができる場所、安全な場所がなければ仕方ないという部分もあり、そういうところは別の検討をしなければいけないというところです。

それから先ほどおっしゃられた四徳大橋のところは、構造的な問題もあります。橋の向こうから来ると何が問題かという、四徳大橋のところで大鹿から中川村方面に下ってくるダンプは、四徳大橋

でダンプが渡っていると大鹿から来たダンプは止まらなきゃいけない、それが4台・5台と並びトンネル直線区間のため、後ろから来る乗用車は分かりますが、1台・2台しかダンプが停まっていなくて、一般の乗用車はトンネルでスピードを出してきますから、ダンプが停まっているのに気付かずにぶつかる可能性もあるということです。

先ほどおっしゃったのは恐らく、そこでハザードで点滅していると、待っていると勘違いして追い越しした際に反対側から来たダンプとぶつかったという事象だと思います。私どものダンプだけではなく、いろんな会社のダンプがあり、小渋砂利組合といった関係者が集まるところがございますが、ハザードを出す場合と方向指示器を出す場合といった共通のルールを作ろうということをしていろいろ話をしています。追い越しをする時は、ウインカーで抜かしてくださいというもの、前が詰まっている時はハザードで知らせるというようなルールを統一することを今やっております。トンネルの中は基本的に追い越し禁止なので、全て禁止というルールで統一をしようとしております。そういった意味で、なかなかルールだけですぐに何とかならないところはございませんが、いろいろ私共も走っておりますので、この構造的に何か上手にならないかというところは長野県も含めて話をしているところです。まずは、運用面で安全にできるところということで、検討はしているところはご理解いただきたいと思います。引き続き、そういったご意見を賜りながら良い方法を見つけていきたいと思っております。

【黒澤委員長】

非常に危険ということで、今のご発言の中にも誘導員とかがっていうご指摘もあったかと思いますが、その点のところはいかがですかね。

【JR東海/水上分室長】

誘導員をどこにつけるかという問題、また、四徳大橋のところではなかなか上手く誘導することは難しいのではないのかということもあります。元々、誘導員という案はありましたが、今のトンネルができる前の話で、前のトンネルでは誘導員を付けないと安全にすれ違えないような場所でした。今はトンネルができ、基本的にトンネル内は交互にすれ違えるので誘導員ということは考えておりませんでした。四徳大橋のところは誘導員だけではなかなか厳しいところです。誘導員をつけることで解決すればそれまでなんですが、誘導員は、そんなに何人も一度につけられないため、カーブから出たところ、それから橋梁の狭い所ということでは、なかなか厳しい部分はあるという認識でございます。

【黒澤委員長】

はい。ご回答いただきましたけれども、非常に危険な部分だということをご理解いただいているかと思えます。ルールの共通化ってというようなことを検討されているという事でありましてけれども、更に安全性が向上するような検討をぜひお願いしたいかなというふうをお願いしたいと思いますけどね。神田委員いかがでしょうか。

【神田委員】

四徳大橋の向こうのトンネルから、どのくらいのダンプが来るか見れば安心なんですけれども、いつまで経っても切れないという場合が、上るほうがちっとも行けないという。このことなんですよ

ね。ですから、残土を載せた下りが優先という事なんですけれども、あんまりにも台数がつながった場合は、一旦ストップして上りの一般車を上げていただけたらなと思います。

【JR東海/水上分室長】

はい、ご意見ありがとうございます。確かにローカルルールとしては、上から来るダンプが優先というルールがございますが、四徳大橋みたいな所でそれを待っているといつまで経っても上にあがれないというケースがあるという事は認識しておりますので、検討させていただきます。

【黒澤委員長】

はい。ご指摘の部分も一応JRさんも認識しているという事ですので、利用者のかたが非常に困ってらっしゃるといことですので、何かいい知恵を出して改善していただけるように、またご検討お願いしたいと思います。そんなことでまた、いい案が出れば出していただいて、次回にでもご回答いただけるとありがたいなと思ったところでございます。よろしいでしょうか。

【神田委員】

ありがとうございました。

【黒澤委員長】

はい。他にご発言ございますか。北原委員どうぞ。

【北原委員】

はい、恐れ入ります。私も今日も言うつもりはなかったんですが、今ちょっとおっしゃった中の一部に触れますが、車両に付けるゼッケンの件で。前回は私申し上げたんですが、翌日車両をチェックしたら、もう既に全くなされてない。小沢課長にもその旨を伝えて、多分大鹿の方には連絡がいったと思うんですが、その回答もない。今言われたように、地元のダンプもここへきて確かに増えてますよ。JRさんたちの管理する車については、やはりいいを言われてもちゃんとしておけば、車両の区別がわかるはずですよ。俺は大型に乗ってるんで一番わかる。今運転手もすいぶんマナーの悪い連中が地元の運転手もそうだけど非常に多い。これは事実ですよ、本当に。今この地域でよく、ご婦人がたから直接私に言ってくるかたもいるんですが。私たちは小さい車じゃない、あの車でかいよねっていう、そういう威圧感っていうのは、そういう意見なんです。例えば交差点で徐行するのは当たり前あって、ただずっと大回りする奴もいるし、今かぶせる奴はいないけど時々います。その表示っていうのは恐らく、誰がそれをチェックしておるのかっていうことが一つの問題であって、朝礼をせっかくやっているならば、車両をチェックする事は簡単なわけだと思うんですが、その点はいかがかなと思います。

それと、駒ヶ根から降りて本郷方のバイパスを走って来る空の車いますが、前回は伝えましたけど、つい3日前ですね、月曜日かな、2台の車両の裏をついてきましたけども、67キロで走行してますよね。一般道路って何キロなんですかね。俺の車にもタコメーター付けてあるので記録が残ってますが、そういうものってあれですか、大鹿における車についてのタコメーターのチェックは誰がやるんですか。GPSはただ車がそこにただ行くだけのチェックだけしか行ってないGPSですよ。何の意味も果たさないGPSですよ。

おそらく今のダンプの皆さんの記録計っていうのは1週間計を使うと思うので、月曜日に入れば土曜日まで。もしくは金曜までは抜かなくても、次の記録を毎日していくわけですが。100台からの車のチェックをどなたがやってるんでしょう。社名を申し上げるけど、フジ勢っていうとこの車が一番駄目ですね。前々から言ってるけども、地元の車は何か目印っていうのは、要するにそこが一つの目印として中央道のリニアの残土を運ぶ車だよっていうのを、伊那工区においても高森工区においても、名義をちゃんとしてますよ、地元の車は。フジ勢のグループだけですよ、してないのは。ダッシュ板にただ置いてあるだけ。見えないです、あんなもの。裏と側面が見えても、前では重要なものなんです。形は大型なんていうのは、誰が見たってどこのメーカーなんてことは、ご婦人がだだって一般の人たちには分かりませんよ。それが一つじゃなくて、これ何回言ってます、ここで。だって一つが改善をされてないものが、先ほどからいろんな意見の中で、安全をどこで担保するんですか。だから、これは工事はどんどんやっぱり進めてもらうのは、いずれにしたって我々が反対するっていうのがないわけですが、安全っていうのはやっぱり町内を走る以上、責任を持ってもらわないと、もっと悪いと思いますよこれは。何か大きな事故があったらこれ、これだけじゃすみませんよ。だってこの間の、中川村の生コンの件だってそうでしょ。地元の人通報があったからあれが発覚しただけで、どうです。大手のゼネコンが平気でああいう事をするんですから。私も地元紙の新聞の社説は全部取って全部読んでいます。この中でほとんど、誠意がないという文章に末尾をとめていますよね。もっと寄り添うべきだって、地元の方の意見を聞くべきだと。

次、三遠南信自動車道の青崩のトンネルの工事の関係で、地元の皆さんも、県の皆さんね、国土交通省の関係だから、トンネル工事の案内までして、後でいろいろ言われるとといけなないのでっていう。地元の方たち有志、飯田市の関係の皆さんが青崩の開通したトンネル見に行ってますよ。要するに誤解がないようにということを表示してるわけですよ。それも地元紙にはちゃんと書いてあります。だから、ちょっとしたすれ違いが後のそういう色んな問題の発端になりかねないので。今一遍そこのところを少なくとも県外から来ているダンプの皆さんには、彼らにとっては、それは飯場でね本当に四六時中仕事した後一杯飲むだけで休まれるっていうつらい仕事だと思うけど、これも仕事でしょうがないですよ。でも地元の皆さんには、そういう色んな問題を発生させられることはこれは迷惑なことなんで。

それと、さっき古町の区長さんおっしゃったけども、もっと怖い所もあるんですよ、皆さん知っていますか。全然気が付かないでしょ、こうやって俺が言うの。林叟院の入り口ですよ。153号線の本線。皆さん飯田へ向かって走ったこと、毎日走ってると思うんだけど、竹やぶに向かった擁壁がもう既に10センチ下がってますよ。153。なぜ俺が言うかという、あそこのバイパスの一番先の工事の時にあの工事を手助けしたものです。ここは必ず将来は崩れるだろうっていうのは、当時言っていました。要するに下は、もう湧き水が出て、当時のどうですかもうバイパスがあいて50年60年です。ブロックの手前のわづめのところに土を入れても結果、湧き水で全部下へさらわれているので、あの竹やぶの下へ行くと湧き水でもって出てますよ。その分だけ道路がどんどん陥没してるっていう現実、今日お帰りの時見てってください。もし高森工区の車が増えて、どんどん行ってる間に、あの擁壁が抜けなければいいがなっていうのが常。大型の運転やっていると一番ようわかるので、またそこは町の役場の小沢さんも見てください。

それで前、伝えたように、小沢課長、竜東線に分散っていうことは出来ないもんなんですか。地元のダンプだけでもちょっと話し合いを持って。別に竜東から豊丘に回っても問題ないわけですよ。リニアの車を含めてですが、一般のダンプの関係については。

【黒澤委員長】

いくつか重要なご指摘をいただいておりますので順を追ってご回答いただいた方がいいかなと思います。それでは厳しい安全管理のチェックの問題をご指摘いただきましたけれども、その部分についてはJRさんの方でご回答いただきたいと思いますが、まずそれからお願いいたします。

【JR東海/水上分室長】

ご意見ありがとうございます。以前もダンプのステッカーの話はいただいております、具体的な会社名も出していただいたところでございます。私共も様々な他県からのダンプも入ってきておりますが、ダンプによってフロントガラスの部分に置くと視界が悪くなるため、若干ずらしたりしているというところは聞いております。先ほどの1社は、どのダンプも全てという感じですかね。

【北原委員】

あのフジ勢の車は高森工区が主体で走ってると思いますが、白のいすゞっていうメーカーの車両は、1台を除く全車両が全部ただ置いてあるだけです。確かに、視界という事を言われると、実際右側の、要するに運転席側のコーナーにこういう登録の板を置くと一部のこの角っていうのはちょっと見にくっていうことは、現実としてないわけではない。ただ、大型にはご存知のように大きな巨大なミラーがついてて、アンダーミラーで全てある程度把握ができるわけですが。地元のダンプはそれを全部きちっとフロントガラスに貼り付けて、対向の人間から見えるように表示をして走行してるってこの現実がある以上、万が一それが例えば、フロントの中でそれを貼り付けることが不可能だということであったら、キャリィの外に貼り付ければもう問題は解決するんじゃないですか。登録してる、これは要するにJR東海さんの車両だよってというのは告知されておけば先ほどみたいに、いろんな問題がダンプで発生した場合、裏も現在付いてるし、前にもつけていてはっきり分ければ、区別がつくということ。中にはそれが悪い運転手もおればそういうもんであの番号だよってことは、例えば通報することが出来るわけですから。それをやるがための要するに表示っていう形に解釈すれば、なんら問題がないと思うんですがどうですか。

【JR東海/水上分室長】

フロント以外では後ろや両サイドにも貼っている部分もありますが、フロントだけです。確認はしておりますが、視界が悪いという話になると安全上問題があったため、そこは安全最優先で、という話をしていたところです。再度、確認して目立つ方法はないか、もう一度検討させてください。

【黒澤委員長】

はい。きちんとやってる車両もあるという中で、ということですので、そこだけ安全管理上ということはないのかなというふうに私も感じましたが。あと、速度の関係とかのタコメーターの関係とかのチェックの事についてもご指摘があったかと思いますが、そこら辺のチェック体制についてはどうなんでしょうか。

【JR東海/水上分室長】

すいません。戻ってきた後に速度確認をしてるかどうかっていうところまでは、今日の段階で具体

的に申し上げることができないので、そこは確認をさせていただきたいと思います。

前回、アルコールチェックのご質問いただいた際には、どういうふうにチェックしてるのかというところは、それぞれの安全運転管理者が毎日の始業前と後にアルコールチェックを行っているというところは確認しております。それから個人の方が個別に通勤で使うような場合のアルコールチェックも4月1日以降の道路改正法の改正で、携帯用のアルコールチェック機を渡しており、それで確認するのと併せて、本人から、通勤なので直接対面できないものですから、電話で話をしながら大丈夫かどうかという確認はやってるところでございます。

【黒澤委員長】

はい、ご指摘をいただいております部分についてはですね、また指摘しても返事がないっていうか、そういうご発言もあったかと思うんですね。やっぱりそういうところがその信頼関係に繋がるというところもご指摘があったかと思うんで、やはり地元の住民の皆さんとうまく理解し合ってやっていくというところで重要な部分かと思っておりますので、そこはきちっとお返事をいただくということが肝要かと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

【JR東海/水上分室長】

申し訳ございませんでした。町さん経由してお答えが届くようにしたいと思います。

【黒澤委員長】

それから、国道の関係で小沢課長。ご指摘ありましたけれども

【小沢課長】

はい。林叟院前の東側の片側の方がへこんでるというような、そのような話だと思ひます。ここに關しましては、前河原道路という道路を造りまして、土留めのほうをテールアルメという工法できちんと留めます。そうすれば今言ったような、沈んでいくような状態がなくなってくるのかなと思ひております。

それから竜東線を使ったらどうだというようなご指摘をいただきました。今現在は国道を往復150台ずつ、MAX150台往復という形で現在ありますけども、高森町役場の方に、事業が高森町事業なものですから、高森町役場の方に連絡をしまして、行きは国道でも帰りは竜東線を、宮ヶ瀬橋が出来たので、そちらの方を使うような方向で検討していただいけませんかという投げかけはしております。ただ、現在はきちんとした回答はいただいておりますので、今後また高森の方に投げかけをしていきたいなというふうに思ひております。以上です。

【黒澤委員長】

北原委員さん。回答いただきましたけど、まだ漏れがありませんか。

【北原委員】

結構です。JR東海さん、再三こうやって周りから言われても、現実あれだけの工事をやっけて、それでもあれだけの事故が起きるんですから。今後台数が増えてきて、全くゼロで工事が終了してくれるのは地元は願ひますよ。でも、交通事故なんて、いつ、さっきの冬の凍結事故だとかそうしたも



のはもう想定外のものである。やっぱりそういうものを行った時に、相手がでかいだけに小さい車の事故ってというのはご想像されりゃ分かると思いますよね。ですからそれをうるさく言うっていうのは申し訳ないですけど、実際地元の人たちにしてみれば、特にこの辺は農繁期なんかは軽トラでボンボン一時停止をしないようなおじいさんが飛んで歩いているけれども、実際そういうもんだってもう直面すれば、運転手によってはこんにゃろって言うやつもいるわけですよ。やっぱそこらは内々にしてもらうにしても、事故があってからでは遅いので、もうそれ以上やってこういう場所で頭下げるのもう皆さん大変じゃないですか。それをだから言ってるんですよ。自分も全国を飛び回ったときに散々いろんな目に遭いましたよ。裏から追っかけまわす、どうのこうのなんてあんなものは日常茶飯事。今だって全く全然終わってませんよ。だから、それと同じで、やっぱり繰り返さないことが大事でしょう。町としてお願いしたいのは、小沢課長やっぱり逃げ腰ですよ。高森のために土を運んでいるんだったらそれは強制的にそれをさせるべきじゃないですかね。いつまで待ったって終わっちゃいますよこんなの残土。そういうふうして前進しましたよっていうのは、次の会議のときに報告してもらえないから、いつもこういう激しい討論になってくと思うんですが、ぜひお願いしたいです。以上です。

【黒澤委員長】

はい、ご指摘のとおりだと思います。回答をきちっといただくっていうことを大切なことかと思しますので。また町の投げ掛けしているという部分についてはしっかり回答いただいて、次回にはしっかりといい回答ができるような形で進めていただければと思いますし、次回の検討委員会前にできれば、もっと良いかと思えますけども。

はい、それでは時間も経過しておりますけれども、他にご発言ございますでしょうか。よろしいでしょうか。何かお気づきの点がありましたら最後にまたご発言いただく機会を設けたいと思いますので。それではJRさんの方もこれ前段ということでしたね、説明ね。後段の説明の方。町のほうから。

【片桐係長】

(3) 車両モニタリング調査及び移動コンテナ局測定結果について(片桐係長説明)

【黒澤委員長】

はい。町のほうで職員がそれぞれ調査をした結果報告ということでございますが。最後の所見のところ、それから各場所で2台以上の連行っていうのが複数あるという状況がどこでも見られているようですけれども。先ほどの場橋の所ではあんまりそういう形ではなかったというJRさんの報告だったかと思うんですが、この2台以上の連行問題については、JRさんはどんな対応でお考えでしょうか。

【JR東海/水上分室長】

各所で連行しているという話は聞いております。私共も走っておりますので、当然確認はしております。ただ、2台以上連なるのをゼロにしろというのは、なかなか難しい状況ではございます。大鹿から運搬していきますが、大鹿を出るときに間隔を空けられない部分やすれ違いができなかったりする部分があります。ただ、一番最初に出るところはなるべく間隔を空けて出しますが、途中でやっぱり止まったりするとどうしても連なってしまうので、何回かに分けて間隔を空けて出すようにし

ています。

一方で、高森・伊那から来るときも間隔を空けて運搬するようにはしています。場合によっては、連続して出てきたというのも聞いております。こういうことをやっているにも関わらず、コンビニやガソリンスタンド、お昼終わりの後に連行して出てくるというケースもありました。この前後や中間地点で間隔を空けるという行為以外にも、走りながらダンプの間隔を空けられるようにするのは、なかなか難しいので、運転手の方にも出発するときには、なるべく間隔を空けて運行するように教育しているところです。この問題は台数が増えると、同じようなケースがこれからも発生すると思います。ここはずっと課題だと思ってますので、何とかいい方法を考えていきたいと思っています。

【黒澤委員長】

はい。この問題は搬出が始まる前から指摘されていた問題だと思います。それで現状こういう形であれば今JRさんのご回答のように、台数が増えれば更に3台4台5台というようなそういう状況になってくると、非常にこの影響が大きく出て来るのかなというのは、想像がつかますので、そこら辺のところはぜひともまた対策をしっかり。当初も間隔を取って出発しますのでという話をいただいたわけですがけれども、それでもですね、状況によっては連なってしまうことはあり得るんですけど、台数が多くなればもっとひどくなりますので、さらに間隔をきちっと空けて出すとか、そういう状況に合わせた対応も必要になってくるかと思っておりますので、町の方でも調査した結果実際にこういう状況が出ているということですので、また対応をしっかりお願いしたいと思います。はい、町の報告がございましたけど、モニタリングの。これについて、ご発言等ございますか。はい。寺沢委員。

【寺沢委員】

前回は申し上げたんですけど、併せて振動と騒音をやっていただきたいということを申し上げて、その回答は町にしてもJRにしてもないということで。ただ科学的に振動と騒音は果たしてどこまで必要なのかということも、私は素人ですので分かりませんが、町としてはどうでしょうか。振動と騒音もついでに、大きな設備ではないと思いますが、ぜひやっていただきたいと思いますが、単にJRさんのダンプだけではなくて、インターを出入りする車の騒音とか振動も併せて取ることができると、ぜひ。今3番のことについて言っておりますけれども、ぜひともいかがでしょうかお考えください。

【黒澤委員長】

騒音と振動についても、調査すべきじゃないかというご発言かと思いますが、町の方。環境については設置をしたけども、他の部分はまだできていないんじゃないかというご指摘ですけれども。町の対応としては何かありますか。

【小沢課長】

そうですね、振動・騒音の関係はJRさんの方をお願いしていただくしかないのかなというふうに思います。

【JR東海/太田垣担当課長】

太田垣です。騒音と振動については、町との確認書ではどこでやるのかというのは協議になってま

す。運行開始前には七楯神社前で測定させていただいており、これからまた台数が増えてきたところで、もう一度させていただきたいと思いますし、今後も定期的に測っていきたいと思います。また、測定次第ご報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【寺沢委員】

すいません。次回の対策委員会はいつ開かれるのかよく分かりませんが、その時までには必ず結論を出していただいて、結局これから120台、7月から120台というふうに見えるわけで、前段の問題も全て台数がそれだけ多くなっていくということは、全てに関わってくるという。安全の問題もそうですし、マナーの問題もそうですし、全てがこれに関わってくるということで、ぜひとも次回までの対策委員会をなるべく早めに関わっていただいて、その時までには回答をぜひいただけるように。騒音・振動は、機械的にどれほど難しいのかという、施設的にお金がどれだけかかるのかということ、それも含めてお聞きしたいと思います、次回までに。

【黒澤委員長】

はい、次回までにということでもあります。既に測定をした経過もありますと思いますので、今ご指摘の部分は、メモを取っていただいたと思いますので、しっかりお願いをしたいと思います。町のほうとしては、対策委員会は次回ってというのは、見込みとか計画とかございますかね。定期的なというような形なのか、何か変動があるときに計画しているというのか、次回についてお願いをしたいと思いますが。

【小沢課長】

はい。まずちょっと次回の日程が確認取れておりませんが、近日中にやる方向で進めたいと思っております。その時にまた今言われたような回答ということでもありますので、またJRさんの方と協議しながら、設置場所の関係も考えながら、報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

【黒澤委員長】

近日中って言うと、一週間とか10日ぐらいっていうふうになっちゃうんですけど、1ヶ月ぐらいの間にとかなんなスパンかなとは思いますが、近日中ということで、また開催するということでもよろしいわけですか。

【小沢課長】

1ヶ月前後で開催をしたいなというふうに思っております。

【黒澤委員長】

はい、寺沢さん、そんなような予定でということもございますので、またご通知がまいるかと思えます。各方面、それまでには回答準備いただくということでもあります。よろしいですか。

【寺沢委員】

結構です。

【黒澤委員長】

他に、この町のモニタリングの関係についてございますでしょうか。よろしいでしょうかね。はい、それでは（４）の方に入ってまいりたいと思いますが、これがJRさんの後段の部分っていうことですね。はい、それじゃ説明の方お願いいたします。

【JR東海/太田垣担当課長】

（４）７月以降の松川IC方面運行計画について（太田垣担当課長説明）

【黒澤委員長】

はい、ただいま７月以降の運行計画ということでご説明をいただいたわけですが、要するに、当初の道路整備、洞新線と護岸線っていう第３のルートが工事が遅れておまして、その影響で現状の運行形態で、４０台から６０台に、２０台増えてしまうと、そういう状況で運行せざるを得ないが、よろしくお願ひしたいというお話だということであります。

工事の遅れの状況なり整備の状況については町がやっている状況ですので、またそこら辺の補足ということで、町の方でご説明いただければと思いますが、お願いします。

【小沢課長】

現在のリニア発生土ダンプの運搬におかれましては、街中を走行する、これは伊那の工業団地で運ぶ計画でありますので、伊那市役所の担当者の方へ、４月の中旬ぐらいに行きまいりまして協議をしましてまいりました。町の現状を説明して、片桐松川沿いの町道、これを改良するまで８０台の台数でお願いできないかというような形で相談をしたところであります。しかしながら本年１２月に企業１社が既に進出するというふうになっておまして、外構工事を考えますと、遅くとも９月末までには一区画だけ大至急造成を完成しなければならないというようなことを報告を受けたわけでございます。

ただ、松川町とかですぬいろいろ話をする中で、１２０台を減らせるかどうか分からないんですけども、代替策を検討するというような報告をいただきました。引き続き伊那のほうの担当の方に話をさせていただきまして、少しでも台数が少なくなるように要望していきたいなというふうに思っております。

それからお手元にA3の用紙があると思います。今現在の整備状況の説明をさせていただきたいと思ひます。まず右側の右下にあります赤いラインですが、これが町道洞新線になります。左側が国道で右側が県道松川インター大鹿線になります。今回この町道洞新線の道路改良ですけども、幅員としては、路肩が0.75車道部分が2.75と2.75の2車線道路になります。合計で幅員が7メートルの道を全部で約1キロほど造る予定でございます。今回一般入札しまして、1工区が240メートル、これは泉崎組が受注しております。

続きまして2工区ですけども、延長が740メートルで、これシブキヤ建設が受注をしております。今現在の状況ですけども、現地の測量をして進めている状況でございます。

それから左側にあります青いところですが、町道護岸線の局部改良という事で、部分的に改良とか待

避所を造るような計画を今現在たてているところでございます。まだ場所は確定しておりませんが、今現在施行箇所の計画でありますので近いうちにまた皆様方にお示しできるかなと思っております。紫色の字に関しましては、これが片桐松川沿いの運搬ルートという事でございますので、今現在の改良計画はこのような形になっております。以上です。

【黒澤委員長】

洞新線の工期は、遅れている中で受注をしたという事ですので、いつ出来るんでしょうか。

【小沢課長】

舗装まできちんとした完成断面になりますと少し年内までかかるのかなという感じで考えております。ただ、路盤までやって片側だけでも通行できるようになりましたら、ダンプを通してこの道を使って片桐松川沿いに行くというようなそのような形で考えておりますので、その関係が9月いっぱいまでには現場の方で業者さんと話しながらか進めてまいりたいとそうように考えております。以上でございます。

【黒澤委員長】

はい、このダンプの通行、発生土の運搬に利用できるようになるのは早くて9月と。道路完成は年内一杯というような町の回答でございましたが。この護岸線の方はまだ計画中ということなんで、こちらの方はどうでしょうか。

【小沢課長】

護岸線の方に関しましては近日中にJRさんと協定を結べるかというふうに思っております。それから、その後すぐに発注ではなくて、ここのところの計画ができましたので、河川の書類だとか砂防の書類だとか、そこら辺を県の方に提出をして許可がおりましたら発注していくというような形になります。これは9月一杯までには何とか間に合わせたいなというふうに思っています。

【黒澤委員長】

はい、こちらの方は部分改良っていうことで、洞新線が9月に通れるようになって、結局こっちが通れなければルートとして完成しませんので、ぜひ9月にはという形での町の方には進めていただきたいと思っております。はい、それぞれJRさん、町のほうから説明いただきましたが、7月以降の運行計画についてご発言ございましたら、はい、熊谷委員さん。

【熊谷委員】

はい。松川くだもの観光協会の熊谷宗明と申します。よろしくお願ひいたします。観光協会の立場から一点お願ひをしたいと思います。新型コロナウイルスも徐々に収まりつつありまして、観光の窓も少しずつ開いてまいりました。6月より最盛期ですと3万人余の観光客を迎え入れておりました。さくらんぼ観光も始まってくるわけでありまして、秋までかなりの観光客が訪れてくるのではないかと思っております。さくらんぼ観光に対しましてもマイカー並びにバスの予約も思ったより入ってきておりまして、いま対応に追われているという状況であります。観光といいますがどうしても土日集中してくるわけでありまして、55軒の協会員がおりますが、沿道沿いで直売してる方たちもお

りますし、松川インターからおりて来る、それから農道を使って観光客が来る。そういう中で東浦交差点を120台のダンプが通過するということになるわけでありまして、協会員は観光並びに観光客にたいする影響を心配するわけでございます。そういった中で、何回も要望してきておりますが、土曜日のダンプの運搬を休工してもらえないかという事を訴えてきております。その点についての見解をまずお伺いをしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【黒澤委員長】

はい。JRさん。

【JR東海/水上分室長】

ご意見ありがとうございます。土曜日運休の話は、以前から伺っております。私共もいろんな所を通って行きますので、なるべく土曜日は観光に与える影響というところも含めて、全部の土曜日運休というところまではいきませんが、なるべく土曜日は休めるように調整はしております。

特にこれから観光シーズンになると思います。お盆期間は当然休みますが、9月10月11月にかけて、9月の中旬以降の土曜日は休めるように調整をします。7月は月3回、この9、16、23日と3回休む予定です。8月は、お盆期間中休むということで、特に土曜日というところは予定してません。9月は、17、24日の土曜日を休む予定です。10月は、1日も含めて全部休めないかという調整はしています。10月11月までの予定は確実というところではなく、10月11月それぞれ月2回土曜日は休むことにしていますが、全部休めないかという調整は行っているところでございます。全部休むというところまでは至っていませんが、なるべく土曜日に休めるような調整はさせていただいておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

【黒澤委員長】

JRさん、さくらんぼ観光というのは、6月ということで今お話があったんですが。

【JR東海/水上分室長】

すいません、6月で申し上げますと11、18日は△になっています。この△は、台数調整としていっているところであり、今のところ11、18日は伊那への運搬をやめようと思っております。松川ICに上がっていくダンプは通らないという予定でございます。

【熊谷委員】

はい。ご配慮いただいているという点は理解したところでございますが、気持ちとしては大鹿村観光協会と同じでございますし、やはり大鹿村は歌舞伎で有名でございますし、松川町は果物の里ということで町をあげて果物生産に汗を流しているということでございます。そういう営みをダンプの台数が多くなることによって、影響が出てイメージダウンになることが一番残念なことになるだろうと思っておりますので、更なる配慮をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。以上です。

【黒澤委員長】

ぜひともまた、ご検討いただきたいという事で。司会が何ぶん不手際で、9時という時間になって

しましたが、先ほど手が拳がっておりまして、もう少しお時間をいただければと思いますけれども。西尾委員さん、どうぞ。

【西尾委員】

すいません、時間が予定時間を過ぎて迫っている中で、ちょっと一点だけ確認させてください。黒沢さんもおっしゃったんですが、元々40台ずつ3ルートで運ぶ予定でしたよね。工事が遅れたんで、その行けるところの残りの2ルートに振り分けて、40台を60台にしてくださいねとこういう話ですよね、ざっくりした。小沢課長を中心に伊那市との協議だとか、大変な努力をさせていただいているとは思いますが。素朴な疑問で、40を60に増やす必要ってないんじゃないかと私は思っているんですよ。どういう事かっていうと、他にルートがありますよね。他に回るルートがありますよね。地図を見ればわかる。要するに国道を行って、国道から、これは前に私も発言させていただいた通り、駒ヶ岳のサービスエリアもしくは駒ヶ根のインターチェンジから上がっていただいて、帰りも行った道を帰ってくる。令和4年の第3クォーターの入り口までには何とかなるのであれば、そういう短いスパンの中で、そういう運行方法やって40台・40台というのはそのままいけるのではないかと、というふうに考えて。元々この40台40台40台でいくという事は、住民の説明会で、こういうふうに減らしますよということで了承が得られたことで。前回の、確か川瀬委員が40を60にするんだったら地元の説明が必要だよねという話をして、ちょっと議事録がないんで分かりませんが、町の方へそういう発言したら検討しますという回答だったと思います。なので、そういうことをせずに済む方法は、国道へ行って国道を通過して帰ってくるということで、街中の2ルートを40を60にすることなく変更ができるという事ではないかと、素朴に考えるんですが。このルート案を採用しない、もしくは採用できないという理由を教えてください。

【黒澤委員長】

はい。これ9月になれば当初の3ルートということかと思いますが、それまでの間、国道を利用して現状の台数を、町内を通る台数は現状通りでという、そういうご提案というか、こういう考え方ができないかという事でありまして。JRさんの方はそういう検討はなされたかという事と、これから検討できるかどうか、ご回答いただければと思いますが。

【JR東海/太田垣担当課長】

他のルートはどうかというお話で、確かに他のルートも考えられるとは思いますが、まずは運行させていただいているルートでももう少し台数を増やせられないかというのを、一番最初に考えさせていただきました。その中で、そのためにそれぞれのルートで今の台数でどの程度流れてるのかっていうのを確認してまいりました。また、いろんな場所にも調査させてもらってるんですけども、そういったことで、今のルートで増やさせていただけないかということで検討しておりました。

また、国道153号を往復するという事で、途中のインターチェンジで乗るという形になるかと思うんですけども、これまでの説明の中でも、片方は隣のスマートインターで降りるところまでは、何とか往復の時間で何とかなるんですけども、片方は松川インターから乗って、片方は隣のインターでおけると、両方とも隣のインターで上って下りるっていうのだと、やっぱり時間的にも厳しいですし、なかなか難しいという中で、今回このルートで進めさせていただきたいと考えているところでございます。

【西尾委員】

前回お示しいただいたインターチェンジをですね、駒ヶ岳もしくは駒ヶ根のインターチェンジを往復とも使うという実車データ、ダンプを走らせたわけではないというお話でしたけれども、実際にそんなに大きく時間の相違はないという結論ですよね。お示しいただいた運行表というのを見ると。今回、特に短い期間であるということ、それから場合によったら片側通行ということで、そういうことが可能になるということも考えると、今40台40台40台で地元同意がほぼ街中の、その完全に納得している人がどれぐらいいるのかって事はわかりませんが、あれで一応決着を見るところ、これ60台になりますっていう話が、果たして区長さんたちもいらっしゃると思うんですが、これこういう話らしいんでって言って、ああそうですかって。それ、なし崩し的にそういうふうな話にしてしまうよりは、そっちの方を検討の方が遥かに楽なのではないか。町だって川瀬さん前回確認した通り、何らかの形で地元の説明会やらずにすっ飛ばして、こういう話が運行を変えざるを得ません、よろしくね。この程度の話で済ますっていうことは、許されないのではないかというのが私の考えです。

【黒澤委員長】

はい、私も前回の川瀬委員の発言は記憶しております。JRさんの回答も、調査をする中でという回答はあったかと思えますけれど、意見を聞いてというのはあったかと思えますけれども。今ご指摘のように、要するに合意を得たのは3ルートで40台っていうことで合意を得ている中で、やはり変更する、台数を増やすのであれば、やはり地元の皆さんに理解を得る説明をする場を設けるということかと思えます。

それでまた今、国道153を使うというのが、まだJRさん、最初のときには検討したかもしれないんですけど、今回この護岸線、洞新線が間に合わないっていう中での代替ルートっていうことでは検討されてないと思うんですよね。そういう意味で、今ご指摘いただいたこの3ヶ月間に限ってということだと思いますけれども、そういう意味で今、ご提案というかご指摘いただいた部分については、検討していただけないかなというふうに私からも思うわけですが。いかがなものでしょうか。それと、説明会についても、台数増やすにあたっての説明会についても、ご返答いただければと思いますけれども。

今ご回答いただくのもなかなか難しいかとは思いますが、国道ルートを使うっていう部分については、台数増える部分については、前回の対策委員会でも説明すべきだというご意見があったかと思えます。そこら辺のところは小沢リニア対策課長も記憶されてるかと思えますけど。よろしいですね。川瀬委員からそういう説明を。町の方、小沢課長いかがですか。

【小沢課長】

はい。運搬自体の主体がJRさんなので、こちらへはJRさんとの検討が必要なのかなというふうに思ってます。それから、今回町としても40台ずつの80台ということでお願いをしておりましたけれども。これはなぜかという、国道のほうのルートも考えさせていただきました。ただ、どうしても交差点で右折が出てしまいますので、右折が出ちゃうとちょっと渋滞の原因にもなるのかなということで、今現在またJRさんの方と詰めている状況で。説明会の方に関しましては事業主体であるJRさんとよく協議が必要かと思えます。



【黒澤委員長】

はい、町としてはJRさんとこの3ルートが、完成しない洞新線・護岸線ができない、遅れている状況の中で、国道利用もJRさんと検討したという。けれども、右折等の影響で理解が得られれば台数を増やす形でお願いする方がいいのではないかという事になったという経緯なんではないかな。どちらにしろ、今のご指摘あったようになし崩し的に40台が60台になるというような形は問題があるのかなと思います。住民の皆さんのご意見が、それぞれ調査してるということでしたけれども、きちんとした場を設けるということが大事な事かなとは思いますが。その点についてはまたJRさんと町と協議をして、設営をしていくという、そういう確認でJRさんもよろしいですかね。一応そういう流れで対応していくという事ですけど、西尾委員さん、いかがでしょうか。

【西尾委員】

ありがとうございます。今もちょっと松浦さんとお話ししていて、この場って何らかの結論を出す場ではなくて、それぞれの意見を言う場で、情報を共有する場でしかないという事なんです。そこを乗り越えてですね、今回私が申し上げた、あるいは北原さんや寺沢さんが前回から言っている事というのは、結論を出さなきゃいけない課題じゃないですか。あの観光協会でも、くだもの観光協会の熊谷さんがおっしゃった事もそうですけど、やっぱりそういうような事を、「貴重なご意見ありがとうございました」「じゃ次の方どうぞ」。よくある会議のパターンにとどまらないようにしていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【黒澤委員長】

はい。ご発言の通りだと思いますので、次回までにはきちっと回答をいただくということで、お願いします。JRさんの方でもまたよろしくお願ひしたいと思はれますけど。町の方もJRさんと協議をする中でという部分は、しっかり協議をして、約1ヶ月先という、先ほど町から回答がありましたので、次回の対策委員会は。それまでにはきちっと回答をいただくということでお願ひしたいと思はれます。西尾委員さん、そんな形で進めていきますのでよろしくお願ひしたいと思はれます。

【寺沢委員】

はい、もう一つだけ。

【黒澤委員長】

それでは簡潔によろしくお願ひいたします。

【寺沢委員】

前回もお話したんですけど、北原さんもおっしゃったんですけど。新井区の皆様も困っているし、大変新井の交差点が集中しているということで。北原さんもおっしゃったんですけど、生田や生東の皆さんもおっしゃっていないので、そこで私がそういうことを言うと失礼というか問題になるかもしれないんですけど、やっぱりある程度、痛み分けということが必要で、どうして生田ルートへ、それじゃ全部が生田へ回すとかいうことじゃない、半分にしよるか、そういう事じゃなくて少しは負担していただけないかという、そういうことが町としてはですね、仲介をできないのということなんです

よ。大事なことじゃないですか。新井の交差点が、もう渋滞で困っている。その時に生田の皆様は、申し訳ないですけど痛み分けっていうこともあるんじゃないでしょうか。高森だって、町は高森のことだからそんなに色々言えないって、そういう事ではないと思います。松川町は、このリニアの、要するにありがたい、私はありがたいと思ってんですけど、リニアの事をみんなで考えて分け合うという、そういう姿勢がないと。先ほど西尾さんもおっしゃいましたけれども、曖昧にして終わっちゃったっていう、そういう事では駄目だと思うんですね。ですからその事をお願いして、ぜひ次回には、今回回答は結構ですけど、次回にはその回答もしていただきたいという、そういうことです。

【黒澤委員長】

はい。ご意見ありがとうございます。町の方でも、高森への投げかけをしておるということで、その回答を次回までにいただいてですね、豊丘ルートというか、宮ヶ瀬橋を使ったルートについての回答もしっかりいただけるように、努力をお願いしたいと思います。町の方でもしっかりと記録をしておると思いますので、漏れのないように、次回までに準備を進めていただきたいと思います。

時間も経過しておりますけれども（４）でありましたが、全体を通してこれだけというご発言をいただければ、お願いしたいなと思いますけど。いかがでしょうか。よろしいですかね。また 1 ヶ月後の対策委員会のより良い回答を期待をしたいかと思えます。それでは会議事項については終了ということで、司会進行の方、だいぶ時間が経過して申し訳ありませんでした。町の方にお返ししたいと思います。ご協力ありがとうございました。

4. その他

その他について（小沢課長説明）

質疑無し

5. 閉会

【小沢課長】

それでは大変長い時間の会議ということで、ありがとうございました。これをもちまして第21回の対策委員会を終了といたします。本日はありがとうございました。